

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構

pmda No.54 2018年 6月

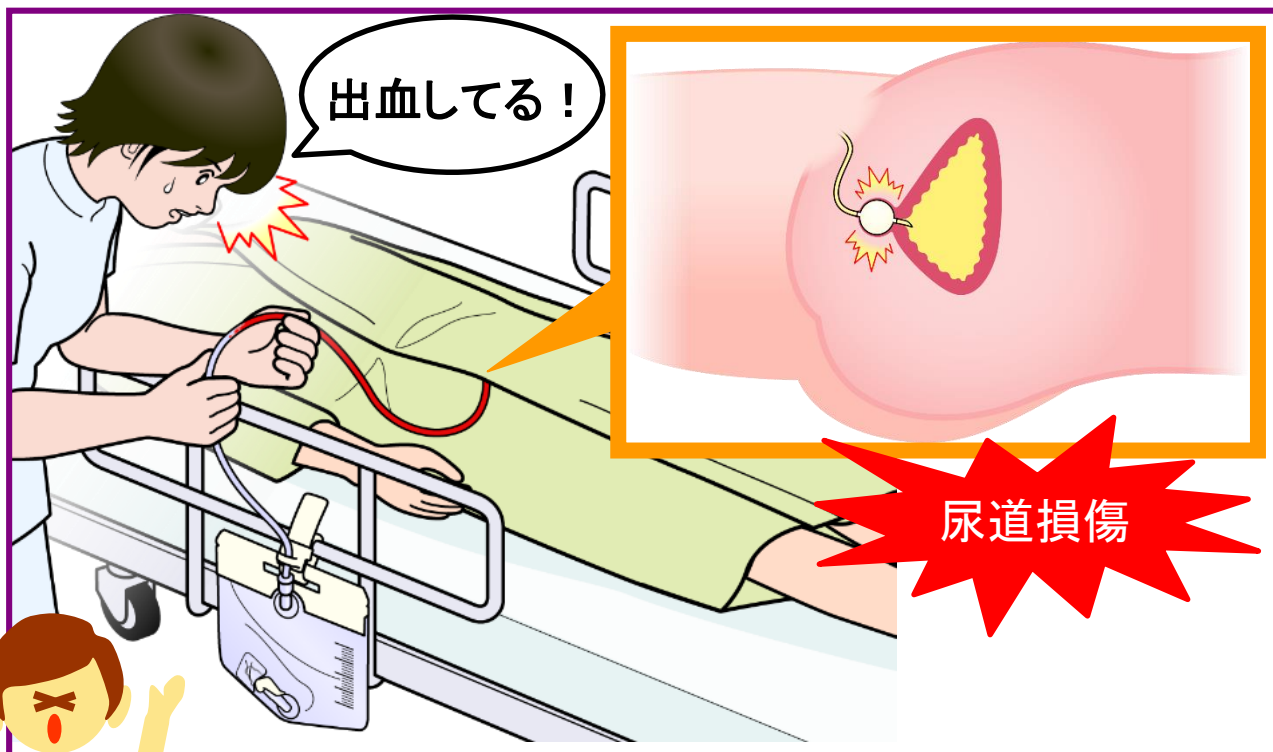
膀胱留置カテーテルの取扱い時の注意について

POINT 安全使用のために注意するポイント

(事例) 膀胱留置カテーテルを挿入した際に、尿の流出はなかったが抵抗なく挿入できたため、固定水を注入した。しかし、膀胱留置カテーテル内に血液を認め、尿道損傷を起こしていた。

1 膀胱留置カテーテル挿入時の注意について

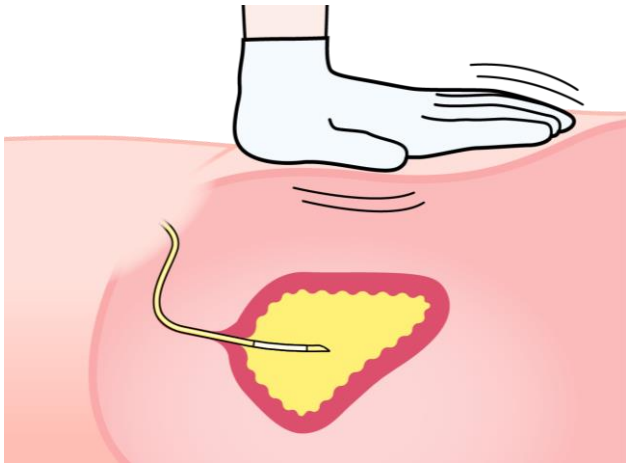
- バルーン拡張前に、必ずカテーテルへの尿の流出を確認すること。
- カテーテルへの尿の流出が確認できたら、さらに奥へ挿入してからバルーンを拡張すること。



尿道内でバルーンを拡張してしまった場合、尿道損傷を招くおそれがあります。

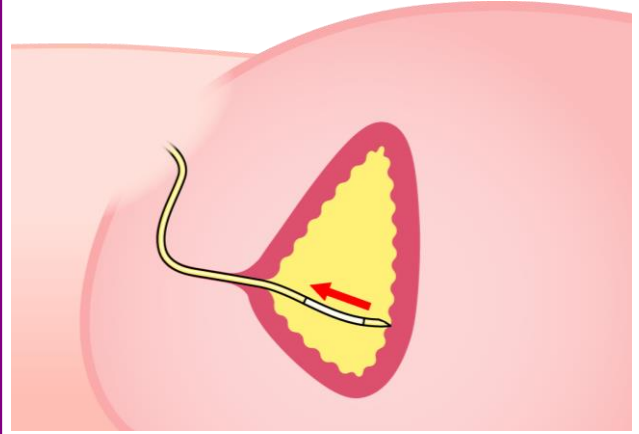
カテーテルへの尿の流出が確認できない時の対処方法

恥骨上部を圧迫する



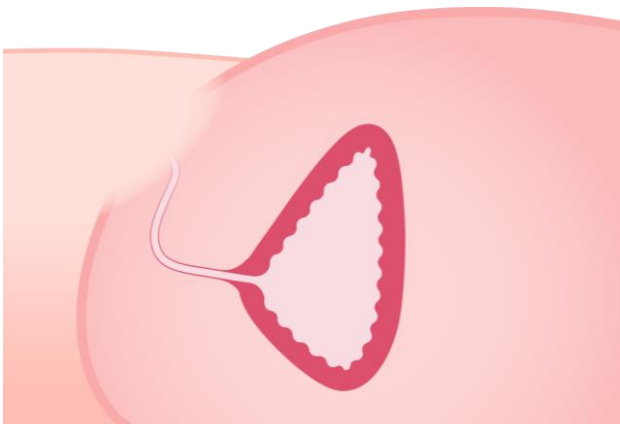
カテーテルの先端位置が不適切であったり、膀胱の収縮力が低下している可能性があるため、恥骨上部を圧迫する。

カテーテルを少し引く



カテーテルの先端が膀胱壁に当たっている可能性があるため、カテーテルを少し引き、膀胱壁から離す。

いったん抜去し、尿が溜まるまで待つ

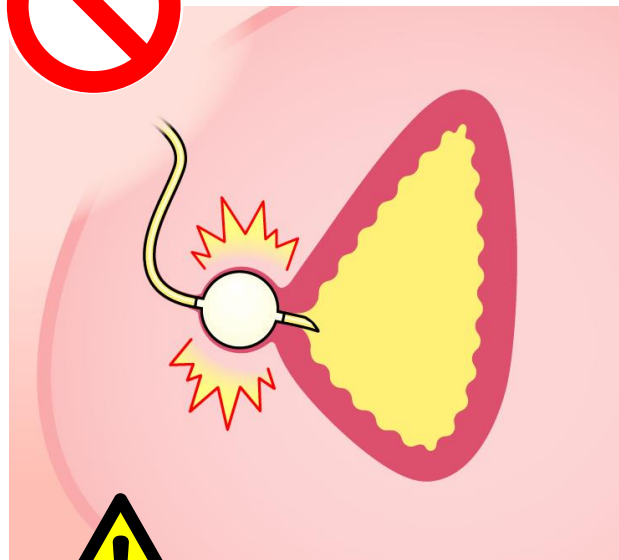


尿量が少ない可能性があるため、カテーテルをいったん抜去し、尿が溜まるまで待ってから**新しいカテーテル**を再挿入する。

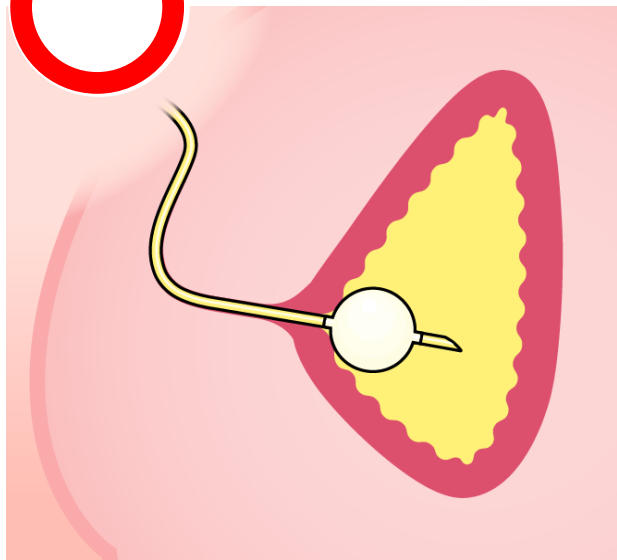
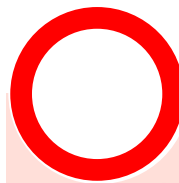
カテーテルへの尿の流出が確認できない場合は、原因に応じた対処を行ってください。



バルーン拡張時の注意点



カテーテルに尿が流出し始めた時点では、バルーン部分は尿道内に位置している可能性があります。



カテーテルへの尿の流出が確認できたら、カテーテルをさらに奥へ挿入してからバルーンを拡張しましょう。



正しい手順で実施してもなお、バルーン拡張時に抵抗を感じた場合は、手技を中断しましょう。
手技に難渋した場合は、無理をせず手技を中断し、泌尿器科医や経験の豊富な医療従事者に相談しましょう。

本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び医薬品、医療機器の品質及び安全性の確保等に関する法律に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。

どこよりも早くPMDA医療安全情報を入手できます！
登録はこちらから。

